

「クセが つ・よ・い！」

ピンチヒッター・モリモトの中国通信

いつもお世話になります！当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます！

今回はいきなり中国とは全然関係ない話題から入るのですが・・・



先日、子供を連れて大阪の街をブラブラしていたら、ケーキ屋さんの前で目を疑いました。

(つдC)ゴッソ (；°д°)

・・・イチゴケーキが1個1100円！？

そういえばTVで今年は白菜やキャベツが高騰中って言ってたし、我が家でも最近は鍋料理少ないなあ～。果物もすごくお高いのね～、などと考えなが

ら、お財布を出すこともなくお店を後にしました。

うらめしそうにショーウィンドーにしがみつく次男を引きはがすのに苦労したのは、言うまでもありません。

・・・さて、今月の中国のトピックは丁場視察の話です。

廈門の取引先様より、「G603に似た石があるよ。今度見においでよ」と声を掛けて頂いたので、1月の半ばにいそいそと出かけて参りました。

場所は福建省莆田。

“莆田”と聞けば、私の頭の中には名物の羊肉や独特な味の豆腐料理が思い浮かび、いやが応にも期待感が増してまいります。私、クセが強い料理に目がないのです。虫とか。パクチーとか。

もちろん石も忘れてはいません。

車に乗り込み、廈門を昼過ぎに出発して約3時間、莆田インターを降りたあたりから、次第に山並みの広がる懐かしさの残る風景に移ってきます。



(海が近いせいか、至るところに風力発電の風車が見えます)

さらに小一時間ほど車を走らせると、ある港町に到着です。

実は今回訪問する採掘場所、海を渡った島の中にあるそうなのです。



(あれが明日乗る船でしょうか?)

舟乗り場に着いたのがすでに夕方だったので、その日の乗船時間は過ぎておりました。タイムボードで翌朝のスケジュールを確認後、ご飯と宿を探しに行くことにします。

港町なので海鮮を扱った食堂がたくさんあると思いきや、メインストリートも割と閑散としており、人通りも少ない感じです。結局、船着き場までもどって、最初に見つけたレストランに入りました。

いちおう中国で良く見るショーケースもあり、食材を見ながら注文するスタイルです。私もリクエスト聞かれましたが、食材見ても分からないので「豆腐！」とお願いしました。

しばらくして出てきたのがこちらのお料理になります。



山盛りの魚ご飯。あっさりして美味しかったです。良く言えばパエリアです。



小エビのピリ辛炒め。野性的な味で、海を感じさせてくれます。



白酒・・・。こっちのクセは苦手なのでパスお願いします。ワンパスです。



豆腐のスープ！待ちました！

莆田の豆腐、アモイや泉州で食べるのと比べると、風味が独特でやはりとても美味しかったです。気のせいかもしれませんがクセが強いような気がして大満足です。

さて食事も済んで、外も真っ暗なので今夜の寝床を探しに行きます。

店員さんにおおよその場所を聞き、夜道をホテル探しに向かいます。

その後も何度か道を尋ねながら、見つかったホテルがこれになります。



写真だと、ネオンで明るく見えますが、ちょっと大きな家くらいです。周囲は畑です。

中国でも流行りの民泊を体験できるなんて！（ポジティブ）

中に入っても家みたいな感じです。実際、2Fには従業員が住んでいる模様。



部屋に入りました。意外と清潔にしています。浴槽はないものの、シャワーもあるし、やたらと熱いお湯も出ます。もちろん鍵も閉まります。移動の疲れもあり、早めに就寝。

翌朝、朝の船に乗るため、再び舟乗り場に車を走らせます。チケットを買って入場すると、すでにたくさんの方が並んでいます。大量の荷物を運んでいる人も見え、旧正月前なので里帰りでしょうか。





いざゲートが開き、乗船しようと殺到する皆さん。飛行機でもそうですが、我先に入っていくのは中国人の習慣なのでしょうか？場所取りでしょうか？



船が見えてきました。波が引くタイミングを見計らって乗船しないと、膝下がびしょぬれになります。



小さい船かと思いきや、乗用車を5台くらい積んでいきます。たくましさを感じます。



出港後に甲板で記念撮影。同行してもらった同僚の王さんから「今から魚釣島（尖閣諸島）に行くぞー！オー！」とブラックジョークを飛ばされますが、近くに軍服の人が居たので本気でやめて欲しかったです。

30分くらい船に揺られて、目的の島に着きました。ただ我々の乗ってきた乗用車が見当たりません。

運転手さんに電話すると、「フェリー乗るのに先頭に並んでたのに、部隊が来たから後回しにされたよ！」とのこと。王さん、やっぱりさっきのジョークまズかったのでは... まあ、中国ではよくある光景なので、仕方ありません、船着き場で約1時間待ちます。

次の船で渡ってきてくれた車に乗り込み、丁場に向かいます。



パノラマ風に撮影した丁場です。意外と深く採掘してあり、歴史を感じます。聞くとところによると、ずっと地元の住居の壁石などに使用していたのをG603の枯渇に伴って、市場に出回るようになってきたとのこと。



掘り出した原石を見ても、形が整っていますし、ある程度長いものも取れそうです。

クセと言えば黒タマがところどころにあるくらいでしょうか。海が近いため、サビの心配もあるといえはありますが、こればかりは時間の経過を待つしかなさそうです。

丁場を見終え、また船に乗り、廈門まで戻りました。

如何でしょうか？我々の中国出張の様子を、少しでも感じ取って頂けましたでしょうか？

弊社では、今回の甫田の石以外にも、数種類のG603代替品を取り揃えております。

お好みの色目や用途によって使い分けて頂けますので、ぜひ弊社営業員までお問合せくださいませ。

今月は以上です。また来月のメルマガもご期待ください。

2018/2/1 森本